

# 麦野 A 遺跡 11

— 第28次調査報告 —

2021

福岡市教育委員会



# 麦野 A 遺跡 11

- 第28次調査報告 -



遺跡略号 MGA-28  
調査番号 1926

2021

福岡市教育委員会





1. 1区全景（東より）



2. SC001 カマド検出状況（東より）



## 序

福岡市は玄界灘に面し、古代より大陸・半島との交流が絶え間なく行われてきました。なかでも博多区麦野周辺には、旧石器時代から中世にかけての遺跡が数多く存在します。近年の著しい都市化により失われるこれらの文化財を後世に伝えることは、本市の重要な責務です。

本書は、共同住宅建築に伴う麦野 A 遺跡第 28 次発掘調査について報告するものです。この調査では奈良時代の堅穴建物や柱穴を検出し、古代の土師器・須恵器等が出土しました。これらは地域の歴史の解明のためにも重要な資料となるものです。今後、本書が文化財保護に対する理解と認識を深める一助になるとともに、学術研究の資料としてもご活用いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、土地所有者様をはじめとする関係者の方々には発掘調査から本書の作成に至るまでご理解とご協力を賜りました。心から感謝申し上げます。

令和 3 年 3 月 25 日

福岡市教育委員会  
教育長 星子 明夫

## 例 言

1. 本書は令和元（2019）年 7 月 1 日から 8 月 1 日に福岡市教育委員会が行った、博多区麦野 1 丁目 27 - 13 所在の麦野 A 遺跡第 28 次調査の発掘調査報告書である。
2. 本書に用いた座標系は世界測地系であり、本書の図に用いた方位は磁北である。
3. 検出遺構には 3 枝の連番号を付し、遺構の性格を示す記号として、SB（掘立柱建物）、SC（堅穴建物）、SP（柱穴・ピット）を用いた。
4. 本書に掲載した遺構実測図の作成は今井隆博が行った。
5. 本書に掲載した遺物実測図の作成は平川敬治・西幸子・今井が行った。
6. 本書に掲載した挿図の製図は今井が行った。
7. 本書に掲載した遺構・遺物の写真撮影は今井が行った。
8. 本書に関わる遺物・記録等の全資料は、福岡市埋蔵文化財センターに収蔵・保管される予定である。
9. 本書の執筆・編集は今井が行った。

遺 跡 名	麦野 A 遺跡	調 査 次 数	第 28 次	遺 跡 略 号	MGA-28
調 査 番 号	1926	分 布 地 図 幅 名	麦野 12	遺 跡 登 錄 番 号	0048
申 請 地面積	604.95 m <sup>2</sup>	調 査 対 象 面 積	176.52 m <sup>2</sup>	調 査 面 積	206 m <sup>2</sup>
調 査 地	福岡市博多区麦野 1 丁目 27-13			事 前 審 査 番 号	30-2-652
調 査 期 間	令和元（2019）年 7 月 1 日～令和元（2019）年 8 月 1 日				

## 本文目次

I はじめに .....	1
1. 調査に至る経緯     2. 調査の組織	
II 遺跡の立地と環境 .....	1
III 調査の記録 .....	6
1. 調査の概要     2. 遺構と遺物	
IV おわりに .....	10

## 挿図目次

第 1 図 麦野 A 遺跡と周辺遺跡 (1/25000)	
第 2 図 麦野 A 遺跡調査地点位置図 (1/4000)	
第 3 図 調査区位置図 (1/1000)	
第 4 図 昭和初期の周辺地形図 (1/8000)	
第 5 図 麦野 A 遺跡周辺航空写真(昭和23年撮影)	
第 6 図 調査区南壁土層図 (1/60)	
第 7 図 調査区全体図 (1/100)	
第 8 図 SB110 実測図 (1/60)	
第 9 図 SC001 及びカマド実測図 (1/60・1/20)	
第 10 図 SC001 出土遺物実測図 (1/3・1/2)	
第 11 図 SP035・073 実測図 (1/20)	
第 12 図 SP035・073 出土遺物実測図 (1/3)	
第 13 図 その他の出土遺物実測図 (1/3・1/2)	

## 表目次

第1表 麦野 A 遺跡調査一覧	
-----------------	--

## 図版目次

卷頭図版	
1. 1 区全景 (東より)	
2. SC001 カマド検出状況 (東より)	
図版 1	
1. 1 区南壁土層 (北より)	
2. 2 区全景 (東より)	
図版 2	
1. 敷地西端抜張部 (南より)	
2. SB110 と柱穴群 (東より)	
3. SP060 土層 (東より)	
4. SP060 完掘 (東より)	
5. SP094 土層 (西より)	
6. SP094 完掘 (西より)	
7. SP095 土層 (西より)	
8. SP095 完掘 (西より)	
図版 3	
1. SC001 検出作業 (南より)	
2. SC001 ベルト土層 (東より)	
3. SC001 カマド① (東より)	
4. SC001 カマド② (東より)	
5. SC001 カマド③ (南より)	
6. SC001 床面検出 (南より)	
7. SC001 完掘 (東より)	
8. SC001 カマド断ち割り① (東より)	
図版 4	
1. SC001 カマド断ち割り② (東より)	
2. SP035 遺物出土状況 (南より)	
3. SP073 遺物出土状況 (東より)	
4. ローム掘り下げトレンチ (西より)	
5. 出土遺物	

## I はじめに

### 1. 調査に至る経緯

福岡市教育委員会は、同市博多区麦野一丁目 27-13 における共同住宅建設に伴う埋蔵文化財の有無についての照会を平成 30（2018）年 10 月 10 日付で受理した。

これを受け埋蔵文化財課事前審査係は、申請地が周知の埋蔵文化財包蔵地である麦野 A 遺跡に含まれていることから、平成 31（2019）年 3 月 18 日と 4 月 17 日に確認調査を実施し、現地表面下 70cm で古代と考えられる柱穴等を確認した。この調査成果をもとに遺構の保全等に関して申請者と協議を行った結果、埋蔵文化財への影響が回避できないことから、建物部分について記録保存のための発掘調査を実施することで合意した。

その後、令和元（2019）年 6 月 21 日付で事業主である個人を委託者、福岡市長を受託者として埋蔵文化財調査業務委託契約を締結し、7 月 1 日から発掘調査を、翌令和 2 年度に資料整理および報告書作成を行うこととなった。なお、今回の事業主体が個人であることから、これらにかかる費用の一部に国庫補助金を適用した。

### 2. 調査の組織

調査委託：個人

調査主体：福岡市教育委員会（経済観光文化局文化財活用部埋蔵文化財課）

（発掘調査：令和元年度、整理報告：令和 2 年度）

調査総括：文化財活用部埋蔵文化財課長 菅波正人

同課調査第 1 係長 吉武 学

庶務：文化財活用課 松原加奈枝

事前審査：埋蔵文化財課事前審査係長 本田浩二郎

同課事前審査係主任文化財主事 田上勇一郎

同課事前審査係文化財主事 朝岡俊也（元年度）

山本晃平（2 年度）

調査担当：埋蔵文化財課調査第 1 係文化財主事 今井隆博

## II 遺跡の立地と環境

福岡平野は、西は背振山系に属する油山から北に派生する丘陵によって早良平野と画され、東は三郡山地から北に延びる月隈丘陵によって柏屋平野との境界をなしている。この平野は主に背振山系から発した那珂川と、牛頭・四王寺山地から発した御笠川とによって形成された沖積平野で、河川の開析によって段丘が南北に連なっている。現在は市街化が進み旧状はほとんど窺えないが、もとは広大な農村地帯であった。

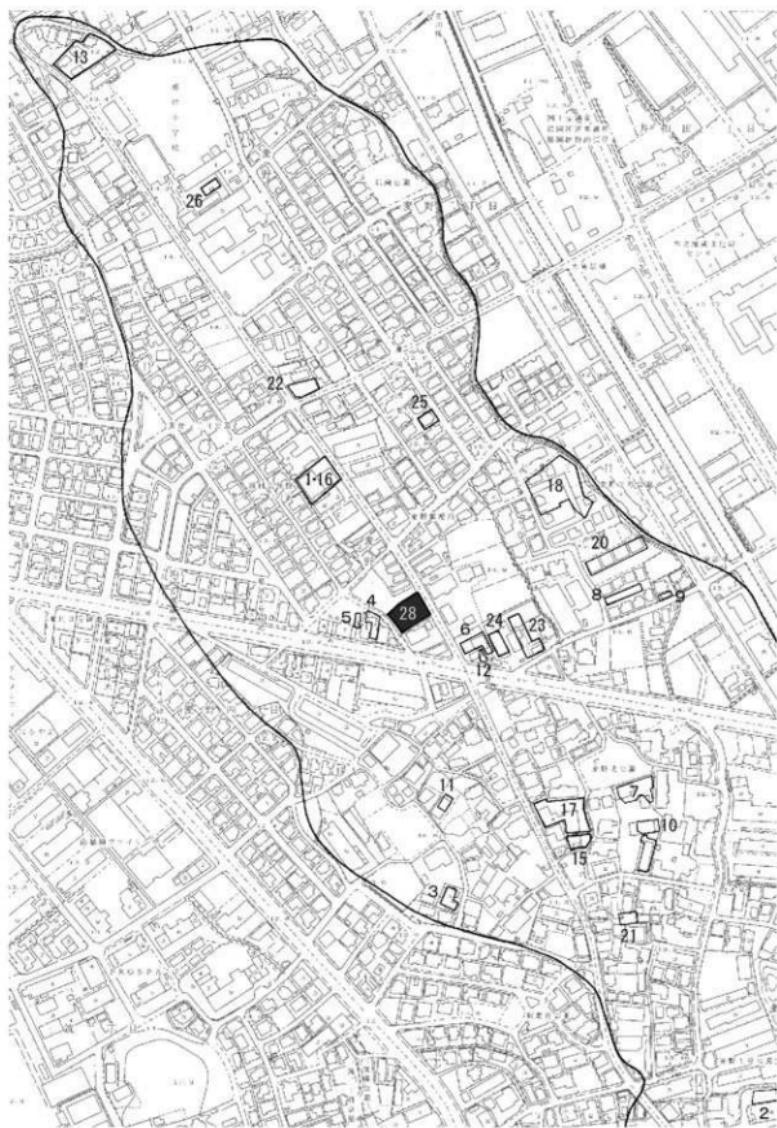
麦野 A 遺跡は御笠川とその支流である諸岡川に挟まれた中位段丘上に立地する遺跡である。この段丘は花崗岩風化礫層を基盤とし、Aso-4 火碎流堆積物による下層の八女粘土層および上層の鳥栖ローム層と呼ばれる堆積物からなる。本遺跡が立地する南北方向に長く延びる台地は、南北約 1.2km、東西約 0.4km で、現況の地表面の標高は約 12 ~ 17 m を測る。

麦野 A 遺跡ではこれまでに 30 次の発掘調査が行われている。第 11 次調査で縄文時代と推定される落とし穴状土坑も検出されているが、主となるのは弥生時代・古代・中世である。特に古代の竪穴建物で構成される集落遺構が顕著で、周辺の麦野 B 遺跡、麦野 C 遺跡、南八幡遺跡、雜飼隈遺跡と一連の大きな集落域の様相を示す。また、第 7 次調査では柵列や溝、門と想定される官衛的な遺構が検出されており注目される。

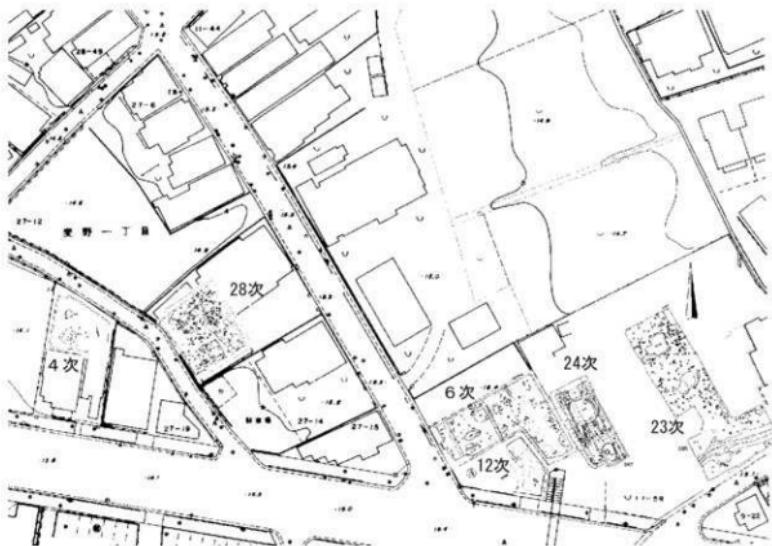


- 1. 麦野 A 遺跡
- 2. 那珂遺跡群
- 3. 五十川遺跡
- 4. 井尻 A 遺跡
- 5. 井尻 B 遺跡
- 6. 寺島遺跡
- 7. 笠抜遺跡
- 8. 那珂君休遺跡
- 9. 板付遺跡
- 10. 高畠遺跡
- 11. 諸岡 A 遺跡
- 12. 諸岡 B 遺跡
- 13. 笠原遺跡
- 14. 三筑遺跡
- 15. 麦野 B 遺跡
- 16. 麦野 C 遺跡
- 17. 南八幡遺跡
- 18. 雜飼隈遺跡

第 1 図 麦野 A 遺跡と周辺遺跡 (1/25000)



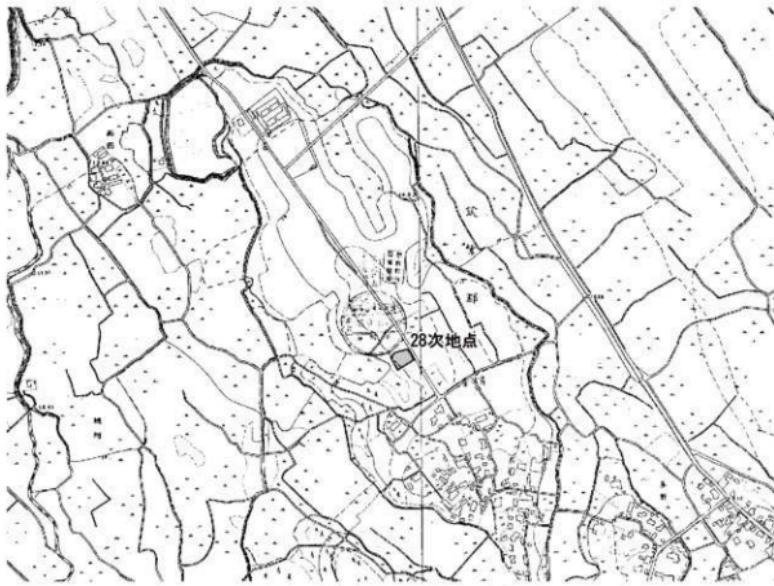
第2図 麦野A遺跡調査地点位置図 (1/4000)



第3図 調査区位置図 (1/1000)

第1表 麦野A遺跡調査一覧

次数	調査番号	所在地	調査面積 (m <sup>2</sup> )	報告書	時期	遺跡の概要
1	8232	麦野 1-28-56	600	107集	中世後半	中世：井戸・掘立柱建物
2	8337	麦野 5-24 他	80	1162集	奈良・井戸	奈良：井戸
3	9116	麦野 4-14-23	247.4	275集	古代・中世	奈良：整穴住居・土坑 中世：掘立柱建物
4	9316	麦野 1-27-3, 5	134	409集	古代	平安：井戸
5	9412	麦野 1-27-1, 2	6	年報 9	古代	奈良：井戸・土坑
6	9824	麦野 3-11-29	224	867集	古代・中世	奈良：整穴住居・溝 平安：井戸・土坑 中世：土坑・溝
7	9972	麦野 3-2-33, 36	460	867集	古代・中世	奈良～平安・溝・掘立柱建物 中世：掘立柱建物・溝
8	0005	麦野 3-10-10	178	774集	古代	古代：整穴住居・掘立柱建物
9	0031	麦野 3-10-10	62.2		中世後半	中世：土坑・溝
10	0061	麦野 5-2-33	405	719集	古代・近世	古代：整穴住居・掘立柱建物 近世：井戸・溝
11	0139	麦野 4-11-5	130	867集	縄文・古代	縄文：落とし穴 奈良：整穴住居
12	0155	麦野 3-11-28, 57, 81～84	80	年報 16	古代	古代：柱穴
13	0156	麦野 2-1-8	250	867集	古墳・古代	古墳：土坑 平安：整穴住居・掘立柱建物
14	0367	麦野 5-5-39	260	859集	古代	古代：整穴住居・掘立柱建物
15	0516	麦野 5-1-41	91.4	年報 20	中世後半	中世：掘立柱建物
16	0529	麦野 1-29-12	26	年報 20	中世	中世：井戸・土坑
17	0619	麦野 5-1-40, 34、35	336	年報 21	古代・中世	古代：掘立柱建物・井戸 中世：溝・土坑 弥生：貯蔵穴・整穴住居・落とし穴
18	0704	麦野 3-10-12	1,565	1054集	弥生・古代・中世	古代：整穴住居 中世：溝
19	0724	麦野 5-8-27, 29, 34	374.8	1055集	弥生・古墳・古墳後期・近世	弥生：貯蔵穴 古墳：整穴住居・土坑 近世：溝
20	0755	麦野 3-10-11	515.5	1056集	弥生・古代・中世	弥生：整穴住居・貯蔵穴 古代：整穴住居・土坑 中世：溝
21	0863	麦野 5-3-30, 41	134.2		縄文・古代・中世・近世	縄文：落とし穴 古代：土坑・溝 中世：溝 近世：土坑
22	1318	麦野 2-17-20	110.05	1298集	弥生・古墳・古代	弥生：整穴住居 古代：整穴住居・掘立柱建物
23	1441	麦野 3-11-25, 33, 60, 62	347	1323集	古代・中世	古代：柱穴 中世：戦国時代の溝
24	1446	麦野 3-11-59	155.4	1323集	古代・中世	古代：遺物のみ 中世：溝・穴窟・掘立柱建物・凹み状造構
25	1524	麦野 3-2-6	32		古代	古代：整穴住居・土坑
26	1602	麦野 3-3-1	84	1403集	旧石器・古代	旧石器：遺物のみ 古代：土坑・溝
27	1916	麦野 5-3-13 他	180			
28	1926	麦野 1-27-13	206	本報告	古代	古代：整穴住居
29	1936	麦野 2-17-1	61			
30	1969	麦野 6-5-1	71			



第4図 昭和初期の周辺地形図（1/8000）



第5図 麦野A遺跡周辺航空写真（昭和 23 年撮影）

国土地理院ウェブサイト (<https://maps.gsi.go.jp/maplibSearch.do#1>) の航空写真画像データを加工して作成

### III 調査の記録

#### 1. 調査の概要

本書で報告する第28次調査地点は麦野A遺跡の中央付近に位置し、遺跡中央をおよそ南北に継続する最高所の道路（板小ふれあい通り）に面している。調査地点の東側には6次・12次・23次・24次地点があり、古代の集落や中世の溝が検出されている。調査地点西側の4次調査では古代の井戸が確認されている。やや離れているが、本地点の北200mに位置する22次調査では、弥生時代中期～後期の遺構も確認されている。

第28次調査は、令和元年7月1日に器材を搬入し、7月2日より表土剥ぎを開始した。表土剥ぎ開始直後に当初の想定以上の土量となることが予想されたため、調査区を南北に二分割し、南半分を1区、北半分を2区とした。7月17日から排土の反転を行い、2区の調査に着手した。敷地西端（西侧道路から幅2m程度）は当初は調査対象外であったが、土留め設置による掘削範囲となっていたため、拡張して調査を行った。7月31日に埋め戻し、8月1日に器材の撤収を行い、調査を終了した。

調査前の現況は、東西両側の道路よりも高い土地で、標高15.5m前後であった。第6図に調査区南壁の土層図を示した（図版1-1）。近現代盛土の下に暗褐色～黒褐色土があり、その下の鳥栖ローム上面（GL-80～150cm）で遺構を検出した。遺構面の標高は調査区東端で14.7m、調査区西端で13.8m前後で、南西に向かって低くなる緩斜面である。

検出した遺構は、古代の竪穴建物1軒、時期不明の掘立柱建物1棟、ピット多数である。出土遺物は古代の土師器・須恵器が主で、コンテナケース2箱分である。

#### 2. 遺構と遺物

##### ①掘立柱建物（SB）

###### SB110（第8図）

2区の柱穴群の西端で検出した1間×1間の建物で、南北3.3m、東西2.2mを測る。柱穴は隅丸方形と楕円形で、大きさは50～70cm前後。いずれの埋土も周辺の柱穴に比べて黒味が強い。柱穴の深さは50～60cm。SP083は新しい遺構に切られて平面形・深さとともに不明であるが、他の柱穴と同様黒褐色土であった。遺物が出土したのはSP060のみで、小片のため時期の判断ができない。

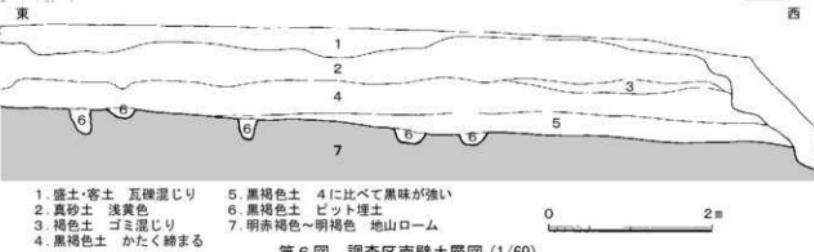
##### ②竪穴建物（SC）

###### SC001（第9図）

調査区南半の中央付近で検出した、やや歪んだ方形住居である。長軸3.4m、短軸は最大で3.0m。

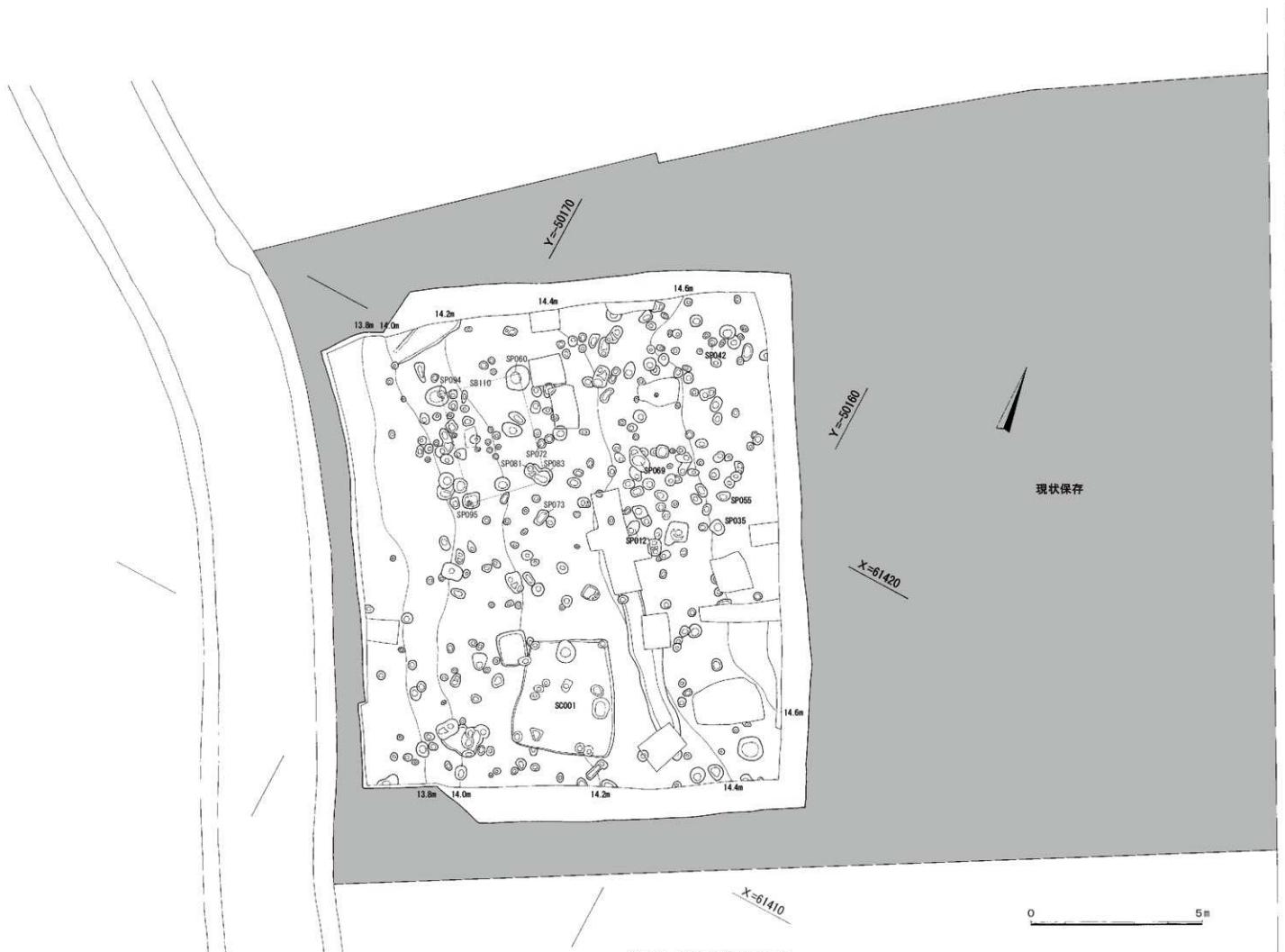
H=15.8m

西

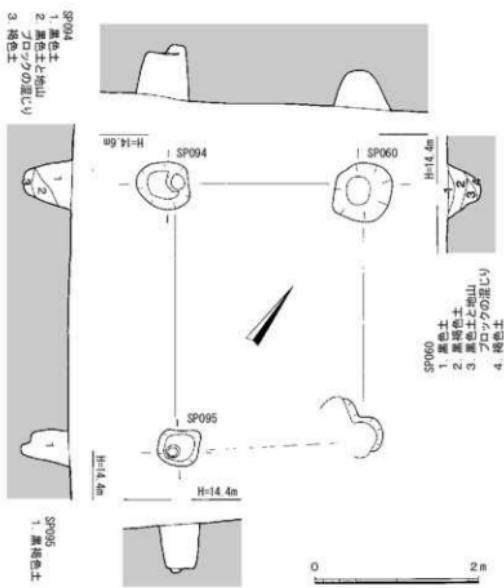


第6図 調査区南壁土層図 (1/60)

道路

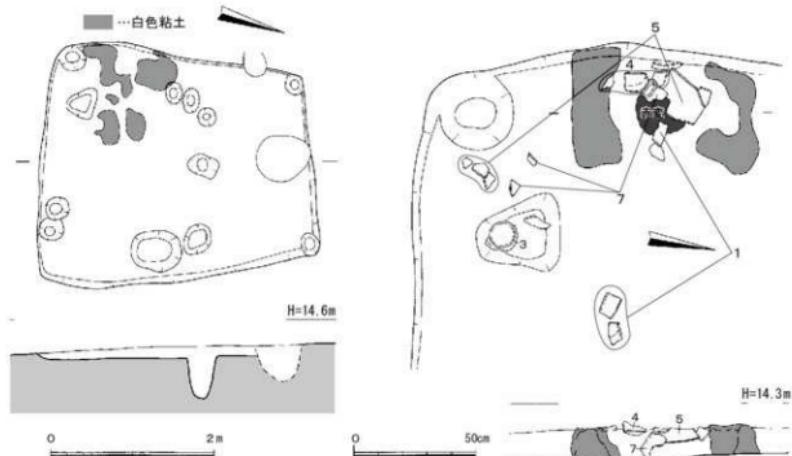


第7図 調査区全体図(1/100)



第8図 SB110実測図 (1/60)

深さ 10 ~ 15cmで遺存状況は良くない。埋土は地山ブロックが混じる黒褐色土である。西壁の南寄り部分にカマドを有し、遺構検出時点で西壁周辺には焼土と白色粘土が散在していた。カマドは破壊され、両袖部がわずかに残る程度である。カマド周辺には土師器・須恵器が投棄されていた。崩れた粘土や遺物を除去すると赤変した燃焼部を検出した。南東隅を除くコーナー3箇所に径 20cm 程度の柱穴が見られ、南東隅も精査したが検出できなかった。壁隅に柱穴を配した4本柱の可能性もある。北壁中央のピットは埋土の上面から掘り込まれており、後世のものである。出土土器は土

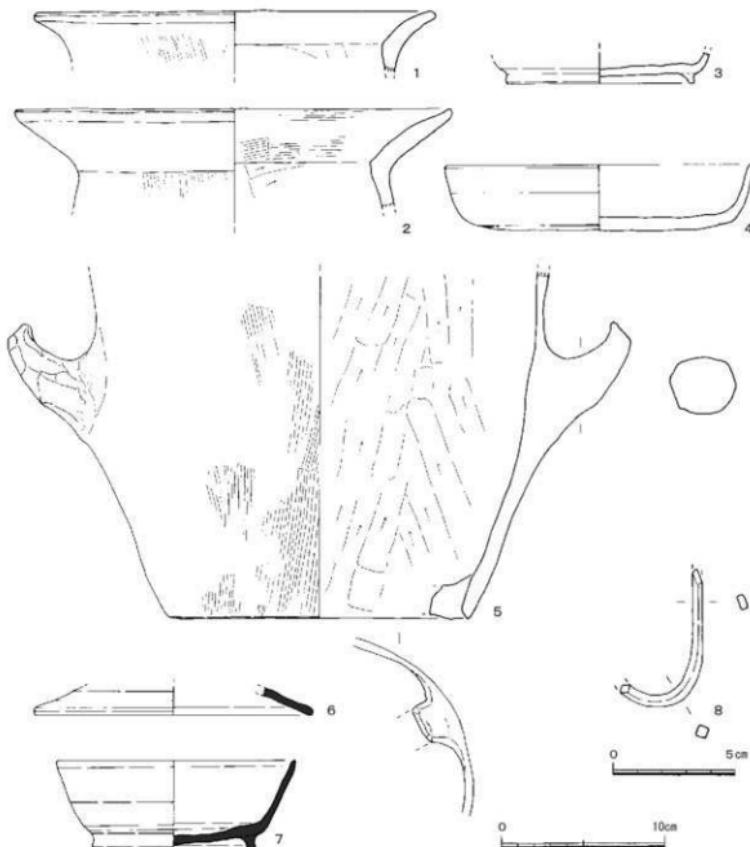


第9図 SC001 及びカマド実測図 (1/60・1/20)

師器・須恵器・鉄器で、8世紀頃の所産と考える。

出土遺物（第10図）

1・2は土師器甕の口縁部である。1は口径24.6cm、外面にはタテハケ、内面にはケズリを施す。カマド周辺から出土した。2は口径26.6cmで、胴部外面にはタテハケ、口縁内面にはヨコハケ、胴部内面にはケズリを施す。3は土師器坏の高台部である。高台部径11.5cm、内面は回転ナデ。4は土師器坏で、約1/4の残存である。復元口径18.8cm。5は土師器の甕で、約1/4の残存である。復元底径18.4cm、残存高21cm。底面は2孔式と思われる。外面には縱方向の細かいハケメを施し、内面にはヘラケズリの痕が明瞭に残る。住居南西隅とカマド中央の土器片が接合した。6は須恵器坏の蓋で、復元口径17.0cm。内外面ともに回転ナデを施す。7は須恵器の高台付き坏で、カマド中央で5



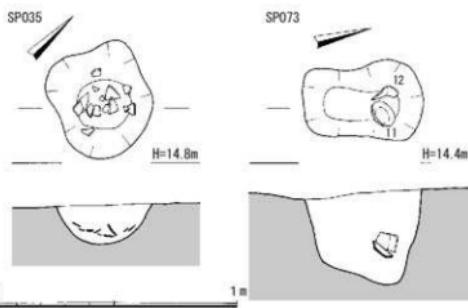
第10図 SC001出土遺物実測図 (1/3・1/2)

と重なるように出土した。底径 10.0cm、器高 5.4cm、約  $1/2$  の残存である。8は鉄製釣針か。直線部分の断面は長方形、湾曲部分の断面は方形である。残存長 5.6cm、厚さ 0.3 ~ 0.5cm。両側を欠損している。

### ③ピット (SP)

#### SP035 (第 11 図)

調査区東壁沿いの中央付近で



第 11 図 SP035・073 実測図 (1/20)

検出した、直径 45cm 前後、深

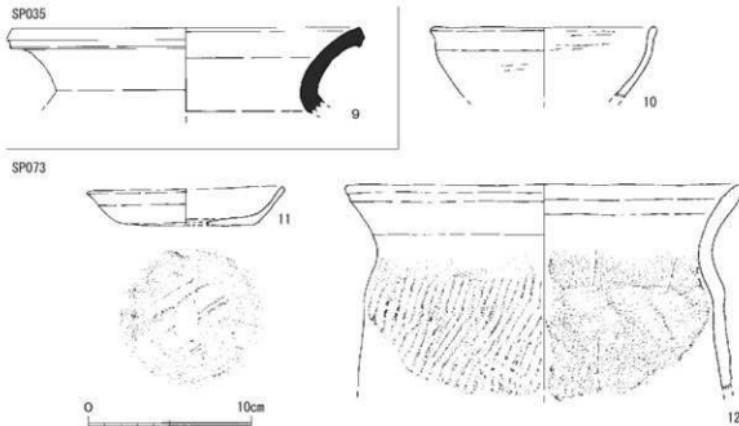
さ 15cm のピットである。埋土は黒褐色土。須恵器甕の破片が多数出土したが、押し潰されたものではなく、破片が散らばった状態であった。口縁部と胴部とにある程度接合できたが、同一個体と思われるものの接点はない。

#### 出土遺物 (第 12 図)

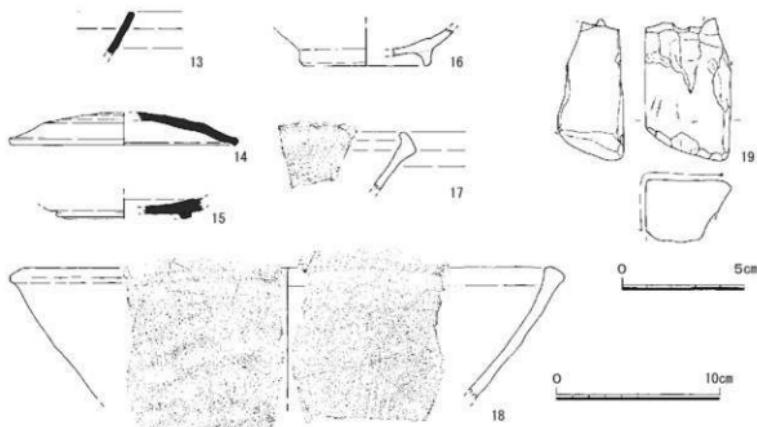
9は須恵器甕の口縁部である。復元口径 21.8cm としたが、小片のため不正確である。内外面ともに横方向のナデを施す。

#### SP073 (第 11 図)

調査区中央付近で検出した、長軸 50cm、短軸 40cm の隅丸長方形のピットである。底面は北側が深く、深さ 40cm である。埋土は黒褐色土。土師器壺や黑色土器、製塙土器が出土しており、古代のピットと思われる。



第 12 図 SP035・073 出土遺物実測図 (1/3)



第 13 図 その他の出土遺物実測図 (1/3・1/2)

#### 出土遺物（第 12 図）

10 は黒色土器椀の口縁部で、約  $1/5$  の残存である。復元口径 13.8cm。内面のみ黒色で横方向のヘラミガキ、外面はヨコナデを施す。11 は土師器の壺で、口縁部をわずかに欠くものの、ほぼ完形である。口径 12.0cm、器高 2.4cm、底部外面は回転ヘラ切りで板状圧痕が残る。内外面ともに回転ナデを施す。12 は玄界灘式製塩土器である。約  $1/3$  の残存で、復元口径 24.4cm。外面には木目に直交する粗い平行刻みのタタキ痕が、頭部内面には横方向の当て具痕が残る。外面の一部に煤が付着している。

#### ④ その他の出土遺物（第 13 図）

13～15 は須恵器である。13 は壺の口縁部で SP057 出土。14 は壺蓋で SP012 出土。15 は高台付き壺の底部で、復元高台部径 8.2cm。SP042 出土。16 は黒色土器椀の底部。SP072 出土。17 は東播系の擂鉢で、SP069 出土。18 は土師質の擂鉢で、内面には 5 条 1 単位の擂目を有する。復元口径 34.0cm。SP081 から出土した。19 は花崗岩製の磁石で、2 面を使用している。SP055 出土。

## IV おわりに

今回の調査では、古代の集落の広がりを確認することができた。一方、東側に位置する 6 次調査では中世の城館を囲む方形区画の堀と推定される溝が検出されているが、本地点では明確な中世の遺構は見られなかった。

近年、麦野周辺で相次いで発掘調査が行われ、調査成果が蓄積されている。これらを総合することで当時の様相が明らかになることを期待したい。



1. 1区南壁土層（北より）

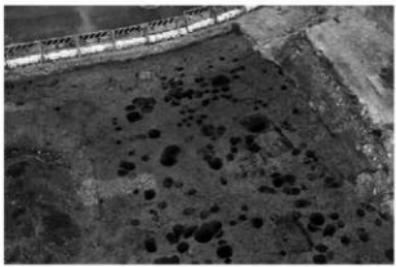


2. 2区全景（東より）

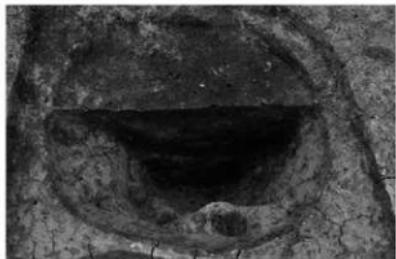
## 図版2



1. 敷地西端拡張部（南より）



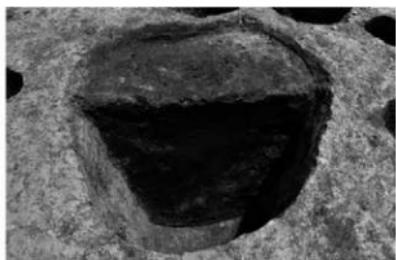
2. SB110 と柱穴群（東より）



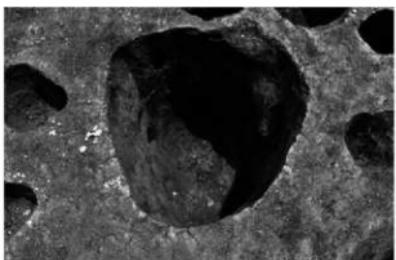
3. SP060 土層（東より）



4. SP060 完掘（東より）



5. SP094 土層（西より）



6. SP094 完掘（西より）



7. SP095 土層（西より）



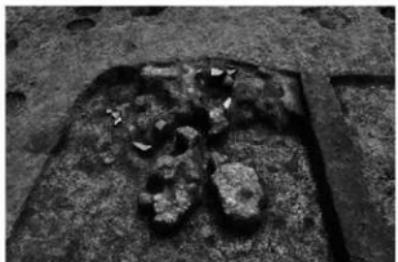
8. SP095 完掘（西より）



1. SC001 検出作業（南より）



2. SC001 ベルト土層（東より）



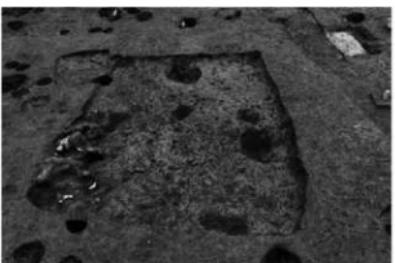
3. SC001 カマド①（東より）



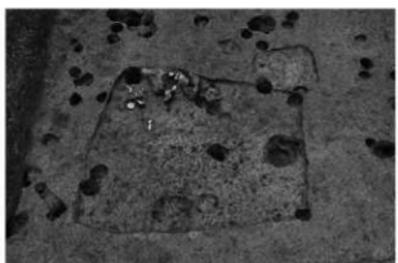
4. SC001 カマド②（東より）



5. SC001 カマド③（南より）



6. SC001 床面検出（南より）



7. SC001 完掘（東より）

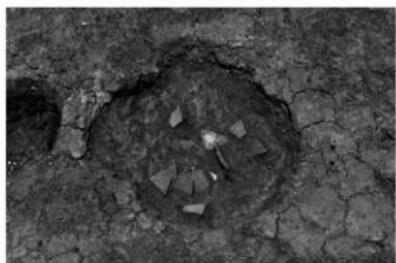


8. SC001 カマド断ち割り①（東より）

図版4



1. SC001 カマド断ち割り②（東より）



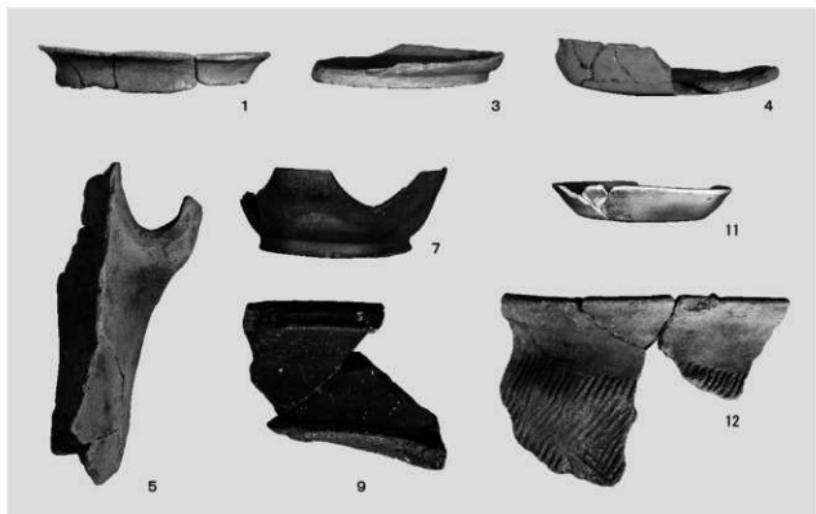
2. SP035 遺物出土状況（南より）



3. SP073 遺物出土状況（東より）



4. ローム掘り下げトレンチ（西より）



5. 出土遺物（縮尺不同）

## 報告書抄録

ふりがな	むぎのえーいせき 11							
書名	麦野 A 遺跡 11							
副書名	第 28 次調査報告							
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 1434 集							
編著者名	今井隆博							
編集機関	福岡市教育委員会							
所在地	〒 810-8621 福岡市中央区天神 1-8-1							
発行年月日	2021 年 3 月 25 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 (m <sup>2</sup> )	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
むぎのえーいせき 麦野 A 遺跡 第 28 次	ふくおかし 福岡県福岡市 ひやま 博多区 めいの 麦野 1-27-13	40132	0048	33°33'9"	130°27'35"	20190701 ～ 20190801	206	記録保存 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
麦野 A 遺跡 第 28 次	集落	古代	掘立柱建物・ 竪穴建物・柱穴	土師器・須恵器	奈良時代の集落を 検出			
要約	本地点では奈良時代の竪穴建物や時期不明の掘立柱建物が検出された。竪穴建物にはカマドが設置され、カマド周辺に土器が投棄されていた。今回の調査では、丘陵西側縁辺部における古代の集落の広がりを把握することができた。							

## 麦野 A 遺跡 11

### — 第 28 次調査報告 —

福岡市埋蔵文化財調査報告書第 1434 集

2021 年（令和 3 年）3 月 25 日

発行 福岡市教育委員会  
福岡市中央区天神 1 丁目 8 番 1 号  
TEL (092) 711-4667

印刷 協文社印刷株式会社  
福岡市西区小戸 4 丁目 24 番 5 号  
TEL (092) 891-0411

